

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査報告(その4)

—明治・大正期の対外戦争と寺院—

新田光子 (戦時被災等調査委員会委員)
〔戦時調査室〕調査担当

渡辺慶子 (〔戦時調査室〕調査研究員)

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査について、前号1月号に続きまして、ご報告させていただきまます。今号では、「明治・大正期の対外戦争と寺院」と題して、「俘虜(捕虜)収容所」をテーマにとりあげたいと思います。

1、対外戦争と

「俘虜収容所」

今回の全寺院対象の郵送調査では、調査票の問6で「日露戦争でロシア人俘虜(捕虜)収容所になった寺院がありますか、貴寺院は、いかがでしょうか」という問いかけをいたしました。「収容所になった」という回答は、6ケースでした。こうした対外戦争にもなう俘虜収容所について、少し説明させていただきます。

「捕虜(とりこ)居る御寺の桜咲きにけり」(高浜虚子 明治28年)で知られるように、日清戦争において清国兵俘虜を寺院に収容した例がありますが、日清戦争では俘虜数も少なく(講和後引き渡し

人数、976人)、俘虜と住民との交流も少なく、あまり話題になりませんでした。

日露戦争では、俘虜の数も多く(講和後引き渡し人数、7万1802人)、全国29か所の収容所、221の収容施設に収容されました。その施設の多くが仏教寺院でしたが、これは明治37年の「俘虜取扱規則」、「俘虜収容所ハ俘虜ノ名誉健康ヲ害セス且其ノ逃走ヲ防止スルニ足ルヘキ陸軍建築物又ハ寺院其ノ他ノ家屋ヲ以テ之ヲ充用スヘシ」に基づいています。

日本は、日清戦争における旅順虐殺などの国際的悪評に配慮し、ロシア兵俘虜を優遇する政策をとり、俘虜の自由行動をかなり認めました。地域住民とのさまざまな交流が日本各地で語り伝えられています。寺院が大きな役割を果たしています。俘虜数が増加するにつれて専用の収容所を建築するようになりますが、当初はその地域の大きな寺院が選ばれたようです。丸亀の塩屋別院はその代表的なものです。

塩屋別院には、当時、軍が収容所に使



資料1 「丸亀俘虜収容所家屋契約書」(一部抜粋)(塩屋別院提供)

用した寺院建物に関わる使用契約書が残されています。その契約書は、本堂・講堂など寺院建物主要部分の多くを収容所にあてること、その使用にあたって月額使用料を払うことなどを約し、「明治37年7月20日」付で契約を締結しています(資料1)。

塩屋別院は第一次世界大戦でもドイツ



資料2 塩屋別院での記念撮影(塩屋別院提供)

兵俘虜を一時収容しました(資料2)。その俘虜がまもなくして「板東俘虜収容所」に移り、そこでベートーヴェンの「交響曲第九番」を演奏したことが映画『バルトの楽園』でとりあげられて話題になりました。

2、宗門寺院の「俘虜収容所」

陸軍省の公開文書にはロシア人俘虜収容施設の具体的な施設名の一覧がありませんので、この分野の研究者は当時の新聞や市町村史などを参考に施設名を明らかにしてきました。これまでの研究では、本願寺派関連では、塩屋別院、金沢別院を含めて8か所を挙げることができます(資料3)。

ただ、これら寺院に限らないと思われます。例えば、大津では近松別院が収容施設になりましたが、大津の収容所全体では30か所の施設があったと言われていますので、近松別院以外にもいくつかあったと考えられます。

調査票でご回答いただいた寺院、さらに研究書など文献調査をおこないましたところ、現在までに次の8か所が該当していました。

仙台の称念寺、高崎の覚法寺、金沢別院、名古屋別院、近松別院、姫路の本徳



資料3 金沢別院での記念撮影(金沢別院提供)

寺、塩屋別院、松山の勧善社。

今後とも調査を続けておりますので、関連情報を、ぜひお寄せください。

参考文献…『明治三十七八年戦役俘虜取扱顛末』陸軍大臣官房(篇)、有斐閣書房、1907年、『日露戦争統計集 第15巻』陸軍省(編)東林書林、1995年、鈴木敏夫『日露戦争裏面史』私家版、2003年、大熊秀治『日露戦争の裏側』第二の開国』彩流社、2011年、他。

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査は、戦争と平和という視点から各寺院の歴史的事実を記録にとどめるといふことを目的にしております。回答集計ならびに寺院事例紹介の次号では、「梵鐘供出」をテーマにご報告いたします。

この調査のとりまとめにあたっては、明年度に「宗門寺院と戦争・平和展」(仮称)の開催を予定しております。宗門内外における情報共有の機会とさせていただきます。宗門内外にたく存じますので、「戦時調査室」に寺院史料・戦前・戦中写真をお寄せください。

資料のご提供先・お問い合わせ先

【戦時調査室】

開室時間・火・水・木 10時～12時、
13時～16時(宗務所休日は除く)
〒600-8349

京都市下京区堺町92

浄土真宗本願寺派総合研究所内

「戦時調査室」

Tel/075-354-5087

Fax/075-354-5360

Mail/senji-chousa@hongwanji.or.jp

新田光子(戦時被災等調査委員会委員)

渡辺慶子(調査研究員)

牛島悠紀(調査研究員)